

(学校運営協議会・報告様式)

令和5年度 第5回 創徳中学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和6年1月12日(金) 19:00 ~ 20:20

2 場 所 会議室

3 あいさつ(学校長・委員長)

4 協議内容

(1)「創徳中学校の通級指導教室の意義と役割」について【通級教室担当 安藤より】
(資料をもとに説明を行う。)

○通級指導教室に何人ぐらい通っているのか。また、1人にかかる時間は何時間か。
→自校は19人、他校は25人。1人につき、週に1時間行っている。

○どのような生徒が多いのか。
→コミュニケーションが苦手な生徒や集団での授業やテストに集中できない生徒が多いように感じる。

○以前から設置されていたか。
→11年前から設置されている。国も県も校内の通級教室の設置をすすめているところである。

○具体的にどういうところを目指しているのか。
→自分の特徴に早く気づき、SST(ソーシャルスキルトレーニング)を通して、自分の特徴を捉えて、こういう場面でこうしたらいいということを学び、自信をもって学校生活が楽しめるようになること。

○特別支援学級籍の生徒が増えたと思うが・・・。
→保護者の子どもの自立のための認識が高まっている。通常学級の中でも特性を知らずに過ごしている生徒もいる。保護者が、子供の特性に応じた支援をしてほしいという流れができてきたため、増えてきていると考える。また、鈴鹿市は5歳児検診があるため、小さい時から早い支援につなげていこうとする制度があるので、早いうちに支援してもらえたらという保護者が増えてきたと思う。

○保護者の満足度がわかるような数値的なものがあるといいと思うが・・・。

○小学校から中学校への引き継ぎはあるのか。また、高校に入学してからの様子も把握しているか。

→小学校から中学校への引き継ぎはある。高校に入学してからも支援を受けながら頑張っている生徒も多いと聞いている。

→中学校から高校へも引き継ぎを行う。小学校から中学校、中学校から高校へ途切れのない支援を目指している、子供が困らないよう、支援を続けていく流れができてきていると思う。

→通級指導教室では「学習の記録」というものを文章で残している。それを担任や学年と共有して支援につなげている。

○通級指導教室があることの効果は何か。

→本校は通級指導教室担当教員が勉強したことを教職員にも研修等で伝え、浸透しているため、発達障がいに関する理解が深まっていると感じる。学年が上がった時に不安な生徒も、教職員全員が支援の方法や特性を理解しているため、スムーズに新学期を送ることができているように思う。

○とてもいい制度なので、引き続きがんばってほしい。

○通級指導教室の意義は大きいと思う。通級教室担当教員がもっている感覚を教員がもって接していかないといけないと思う。どの先生も対応できるように研修をしていかないといけない。

夜の弁天山公園に心配な生徒もいる。その子がなぜ、そうなっているのかを分かって接することが大切だと思う。

5 教育委員会より

・通級指導教室について

6 その他

○次回 令和6年2月9日（金） 19:00～